

令和元年度 硬式テニス部

～仲間の1勝はみんなの1勝～



《年間結果報告》

新人戦 男子団体 ベスト16

高校総体	女子団体	7位
高校選手権	女子団体	6位
新人戦	女子団体	6位

【部員】

男子

<113期生> 東山雅幸(文岡) 藤田和志(多気) 奥野 蓮、山口 陽、青山航大(港)
<114期生> 権藤優真(厚生) 濱口幹太(五十鈴) 長谷川滉哉(豊浜)
桑島真尋、池田聖也(加茂) 水谷光来、松本空也(浜島)
<115期生> 奥野宏翔、山本悠人(倉田山) 田中隆央(磯部) 小瀬古雄貴、和田響(浜島)
世古口玲麻、村田雄飛(明和) 竹内八雲(志摩) 中川裕喜(五十鈴)
中世古翔(度会) 西出幸生(多気)

女子

<113期生> 山本栞菜(安乗) 塩田菜々美(東海) 島津萌乃香、谷川原奏美(文岡) 高尾桃音(飯南)
森 愛夕香(小俣) 上谷和可、中村あかね、山口璃々、森脇瑞貴(北浜) 小磯恵美(倉田山)
<114期生> 奥田 葉(倉田山) 奥野こはる(厚生) 藤原心愛(港) 北岡愛梨(二見) 西山藍華(玉城)
小林素子(鳥羽東) 中村梨乃(文岡)
<115期生> 井村春翔(加茂) 野村聖来(志摩) 田中優衣、中村心咲(二見) 増川友梨(厚生)
井村杏奈、山口裕喜(城田) 玉木音々(磯部) 中村淑乃(伊勢宮川)
柴山ひなた(鳥羽東) 橋爪優(文岡)

～活動実績～

《 男子 》

○ 高校総体

- ・男子団体戦 2回戦敗退（シングルス2本、ダブルス1本での対戦）
1回戦 対 メリノール学院高校 3－0勝利
2回戦 対 津田学園高校 0－2 勝利（S2 途中棄権）
- ・男子シングルス
ベスト64 東山雅幸 藤田和志 山口陽
- ・男子ダブルス
ベスト32 東山・藤田ペア 山口・奥野ペア

○ 高校選手権

- ・男子団体戦 2回戦敗退 （シングルス2本、ダブルス1本での対戦）
1回戦 対 近代高専高校 3－0勝利
2回戦 対 四日市工業高校 0－3敗退
- ・男子シングルス（3年生の部）
ベスト16 東山雅幸 奥野蓮 藤田和志
- ・男子シングルス（1，2年生の部）
ベスト64 長谷川滉哉

○ 新人戦

- ・男子団体戦 ベスト16（シングルス3本、ダブルス2本での対戦）
2回戦 対 高田高校 4－1 勝利
3回戦 対 津東高校 1－4敗退
- ・男子シングルス
ベスト64 桑島真尋 松本空也

《 女子 》

○ 高校総体

- ・女子団体戦 **7位**（シングルス2本、ダブルス1本での対戦）
1回戦 対 川越高校 2－1 勝利
2回戦 対 四日市西高校 3－0 勝利
3回戦 対 津田学園高校 0－3 敗退
5～8位決定戦 対 名張青峰 1－2敗退
7～8位決定戦 対 セントヨゼフ高校 3－0勝利
- ・女子シングルス
ベスト16 奥田葉
ベスト64 山口璃々 山本葉菜 島津萌乃香 塩田菜々美 小林素子
- ・女子ダブルス

ベスト16 山口・森ペア

ベスト32 森脇・小林ペア 上谷・奥田ペア 島津・山本ペア 谷川原・中村梨ペア

○ 高校選手権

・女子団体戦

6位（シングルス2本、ダブルス1本での対戦）

1回戦	対	四日市西高校	3－0 勝利
2回戦	対	川越高校	2－0 勝利（S2 打ち切り）
3回戦	対	津商業高校	0－2 敗退（S1 打ち切り）
5～8位決定戦	対	四日市農芸高校	2－1 勝利
5・6位決定戦	対	津高校	1－2 敗退

・女子シングルス（3年生の部）

ベスト16 森愛夕香 塩田菜々美 上谷和可

ベスト32 山口璃々

・女子シングルス（1，2年生の部）

ベスト32 奥田葉 小林素子

ベスト64 西山藍華 奥野こはる 中村淑乃

○ 新人戦

・女子団体戦

6位（シングルス3本、ダブルス2本での対戦）

1回戦	対	名張高校	5－0 勝利
2回戦	対	上野高校	4－1 勝利
準々決勝	対	津田学園	1－3 敗退
5～8位決定戦	対	名張青峰高校	3－1 勝利（S3 打ち切り）
5位決定戦	対	鈴鹿高校	0－3 敗退（D2・S3 打ち切り）

・女子シングルス

ベスト32 奥野こはる 小林素子

ベスト62 藤原心愛 西山藍華 奥田葉 中村淑乃 野村聖来 増川友梨

・女子ダブルス

ベスト32 中村梨・奥野ペア 西山・北岡ペア 奥田・小林ペア

～各大会・思い出のヒトコマ～

～部結成～



～県総体～



～夏合宿～



～高校選手権～



～3年生引退バーベキュー～



～新人戦～



～思い出あれこれ～



～卒業式・3送会～



【概要】

シード権を取り戻す、ベスト4奪取と男女それぞれ明確な目標がある。そして長い冬を越え、手応えを感じながら春を迎えた。吉田真司先生、新入生も男女で22人が加入し、広いコート6面も狭く感じるほどの状況でチーム力もさらに向上。期待を感じさせるスタートとなった。

昨年の春の総体で活躍した東山、藤田を中心に、残りの3年も力をつけ、1年ぶりのシード権を取り返そうと総体の団体戦に臨んだ。写真にもあるが、結城神社で必勝祈願に行ってから抽選会。結果は見事に第2シード津田学園のバッキン。ショックで、抽選会後学校へ戻る車の中は、「やってしまった」と頭を抱える東山。しかし、学校に着き報告すると「奇跡を起こしちゃいますか」と落ち込むどころか、「やるしかないでしょ」とすぐに練習に集中する生徒の姿に、諦めてかけていた自分が恥ずかしく、生徒たちの逞しさに力が湧いてきたのを今でも忘れられない。それから3週間、夢を追いかけるがらの練習は充実していた。試合結果は初戦は勝ち抜き、津田学園に敗戦となった。しかし、山商らしさが詰まった大会となった。3年間ずっと同級生の中で自分の運動能力の低さを感じながら、誰よりもコツコツと自主練を重ね中学校まで陸上部の不器用な青山がシングルス1で出場。みんなから声を囁らすほどの応援を受け、その声に鼓舞されながら躍動する姿は、山商の計り知れないチーム力を感じさせる場面だった。団体戦の山商敗戦が決まった後のシングルス2には、昨年のベスト4の立役者藤田。津田学園の選手も全く消化試合という気持ちではなく全力プレーで、本当に感謝でいっぱいだった。そこからは、結果は決まってはいるものの、チームに1勝を届けたいという意地とプライドの死闘となった。約2時間の試合は、結局藤田の足が悲鳴をあげ、立ち上がり試合を続けようとする藤田に「ご苦労様」と声をかけ試合を止める形で敗戦となった。あの時間を共有した生徒たちは、どんな言葉で説明しても語りつくせない、人生で大切なことを学ぶことができたと思う。遅くまで運営に携わって頂いた先生方や審判員の生徒たち、見守って頂いた保護者、卒業生に感謝の気持ちでいっぱいである。

男子の悔しさを力に、女子のベスト4への挑戦は始まった。初戦、2回戦とも北勢の強豪校との闘いに、それぞれの役割をしっかりと果し、勝ち上がることができた。そして、悲願のベスト4をかけ、男子が敗れた津田学園との戦いに、自然と力が入った。ダブルス、シングルス1は気合が空回りする場面もあり、歯が立たず敗戦となった。残るシングルス2は、チームの誰よりも自主練でコートに立ち続けた、気合と根性の山口。一矢報いてくれると期待が高まった。しかし、相手の粘りと試合巧者の戦いに苦戦し追い込まれていった。男子女子、新1年の誰もが勝利を信じ、1ポイントごとの長い攻防を見つめた。絶対に諦めないという姿は、相手のマッチポイントに現れ、100回を超える長いラリーとなった。先輩から受け継いだ山商の魂を感じさせる時間だった。その長い長いラリーに敗れ崩れ落ちる山口を、仲間みんなが誇らしく感じる事ができた。レストの時間もほとんどなく順位決定戦はスタートした。先輩たちの分までと責任感でガチガチな2年生エースの奥田のシングルス。先輩たちの

フェンス越しの応援を背に受け、これぞ団体戦という仲間の声援に自分を鼓舞し、最高の試合内容を発揮した。負けてしまい泣きじゃくる奥田を責める者は当然誰も居ない。躍動した奥田に感謝を伝える先輩たちの姿に熱い思いがこみ上げた。結果は昨年の新人戦から順位を下げ、7位入賞で総体を終えた。この大会を最後に女子キャプテンの島津など、3年生数人が進路実現に向け引退となった。悔しさを残す大会結果となったが、それぞれの歩んできた道が集約された団体戦の3日間に、やり切った充実感をもってコートを後にした。

このままでは終われないと、男子3年生4人、女子4人が夏の高校選手権を目指してくれた。女子の高尾と中村は後輩のために少しでも役立ちたいと、球出しや練習相手に暑い夏も練習に参加してくれた。こういった選手に支えられ今の山商の活動が継続されていることに改めて感謝したい。今度こそと、臨んだ高校選手権の男子の抽選会。まさかまさかの総体の第2シード津田学園に続き、高校選手権は四日市工業のバッキン。もう笑うしかなかった。最後の舞台で日本のトップチームとの対戦に、すべての3年生が集大成を誓った。暑い夏、自分たちの最後の舞台に向け努力すると同時に、最後の戦いが四日市工業と決まり、おそらく叶わない自分たちの代でのシード権奪取を託すかのように後輩の指導に力を注いでくれた。「後輩たちの勝利のためにできることを精一杯」という思いを感じ取れ、成長した姿が頼もしかった。あっという間に夏は過ぎ最後の試合。結果は、もちろん敗退。これまで、何度も四日市工業との対戦は私自身あったが、1ポイント1ポイントを大事に戦っている選手をこれほどまで感じ取ることはなかった。その姿は、まさに集大成を出し切りたいという思いを感じた。

女子は春の雪辱を果たしたいという山口と、控えに甘んじていた森、塩田、上谷の最後の団体戦にかける思いが詰まった夏だった。女子の3年生もまた、たくさんの初心者1年生をしっかりと指導し、また伸び盛りの2年生の練習相手の役目をしっかりと担ってくれた。そんな彼女たちの最後を飾ろうと、選手として団体戦の舞台に立った2年生の小林、奥田も気合の入る毎日だった。試合では、3年生がダブルスを、シングルスには2年生中心でしっかりと勝ち上がった。しかし、ベスト4の壁はやはり高く順位決定戦に回った。最後の最後の5、6位決定戦。3年生のダブルスは勝利し、2人の2年生のシングルスに勝敗は託された。シングル1の奥田は相手の高い技術に、長いラリーで応戦したが善戦むなく敗退。勝敗はシングル2の小林に託された。小林もまた、相手の高い技術に対し、深いラリーで応戦し2時間近くの試合となった。大接戦の展開に祈る3年生、声を嗄らし応援する男女の部員。まさにチーム一丸となった時間でした。残念ながら惜しくも力及ばず敗戦し、6位となった。迷いの中で決断した3年生にとって最後の夏は、間違いなくやり切った良かったと思える夏になった。後輩たちにも、3年生と過ごした夏がいかに貴重な時間であったかが、自分たちがその立場になったとき感じると思う。

大黒柱を失った男子の1からスタートとなる新人戦。背中を追いかけてきた先輩たちが、緊張と重圧の中で逞しく戦っていたことを改めて尊敬する戦いとなった。1回戦から自分の力を出し切る難しさを実感する戦いとなり、いかに甘く練習し、追い込んでいなかった自分を確認できたと思う。数多く練習試合でも相手頂いていた津東高校に全く試合にならない2回戦敗退となった。女子も憧れていた団体戦は、想像以上の重圧がかかり普段通りのプレーをすることの難しさを感じる舞台となった。入部当初からこの舞台でのベスト4を目指し、努力を重ねてきた奥田たち2年生7人だった。しかし、目の前に立ちはだかった津田学園にまたもや跳ね返されることとなった。それぞれがシングルス、ダブルス、応援で全力のチャレンジをとったが力不足を感じる敗戦となった。

令和元年に設定した団体戦での目標は達成することはできなかった。しかし、その目標に向け努力した日々の達成感や、チャレンジした大会中チーム1人1人が完全燃焼できたことから、決して悔いを残す1年とはなっていない。大きな令和2年に向けたエネルギーとなっている。このモチベーションでいられるのは、卒業生16人それぞれが、3年間完全燃焼し、成長していった姿を1、2年生に残してってくれたお蔭だと誰もがわかっている。4月からの新3年生が一番わかっていると思う。勝利の喜びも、負けた悔しさも。絶対に卒業生がやり残した夢を叶えるぞ！

～中学生の皆さんへ～



仲間の1勝はみんなの1勝

個人競技に思われるテニスですが、一人一人がバラバラでは、個人の勝利も団体戦の勝利も勝ち取ることができません。部員みんなに対する思いやり、支えてくださる家族に対する感謝の気持ちをテニスを通じ育ててほしいと思います。

嫌々テニスを練習していても上達しません。テニスコートに行くことが楽しみで、みんなと練習している時間が、毎日の中で一番充実した時間になるよう顧問・先輩たちは頑張っています。

山商テニス部と一緒に青春しましょう！

（設備）

山商のテニスコートはなんと6面もあります。ですから、入部当初からボールを使っての練習に参加できます。県下でも珍しいハードコートが2面、クレーコートが4面あります。さらには、全コート照明も完備されています。日照時間が短くなる秋、冬にかけてもテニスコートを使って練習ができます。

（活動内容）

練習時間 平日 15:50～18:30

休日 8:30～12:30

※ 休日には練習試合・大会が入ることが多いです。

※ 週に1度は休息日を設けてあります。